

## 日中戦争時の大新聞の部数拡張狂奔の実相

### — 大阪朝日専売店・愛媛県八幡浜市大登新聞舗所蔵の資料分析

山本武利

近代日本のメディアとくに新聞は戦争とともに成長したといわれる。とくに昭和期にはいった満州事変は第1次大戦後に停滞した新聞市場を拡大する火付け役となった。この市場の牽引役は『大阪朝日』、『大阪毎日』であった。両紙は関西地区を基盤に西日本で乱売競争を展開し、部数を増やすとともに朝鮮、台湾、中国、満州で読者を開拓した。とくに日中戦争が占領地を広げるに比例して日本人兵士や日本企業労働者、移民層に浸透した。占領地の周辺で日本軍の戦果を号外として発行した。戦地の活動は本土の戦況報道の火を煽り、大新聞を加勢した。こうした部数拡大を担ったのが、各地の末端の新聞販売店であった。愛媛県八幡浜市の朝日専売店のミクロな営業資料や宣伝資料を丹念に分析し、大阪を基盤とした大新聞のマクロな動きとの関連を立体的に実証しようとした。